



え い ち 叡智と愛 2.0

白杵市立北中学校
校長通信 NO.28
令和7年 11 月18日
文責:戸高浩二

北中生へ

シン・文化祭 2.0 を終えて…



芸術:「スイミー」

自分の良さに気付かず、いつも他の魚と比べ、自信が持てないスイミー。心を閉じて、自分から他の魚や生き物の中に入っていこうとしない孤独なスイミー。そんなスイミーがクラゲやイソギンチャク、イセエビなどと出会いながら、少しずつ心を開き、自分の良さに気づき、仲間がいる素晴らしさを感じていく。スイミーの心の変化や成長を丁寧に描き、表現した大作だった。そして誰もが、かけがえのない、唯一無二の大切な存在であることを改めて知ることができた。

上演中、スイミーはこの後、どんな生き物に出会うのだろう。スイミーは出会いを通じて何を感じるのだろう。スイミーはどう変わっていくのだろう。そんなことをずっと考えながら、まるで海の中にいるような不思議な感覚で観ていた。なぜ、こんな感覚になったのだろうか？

それは、登場する生き物の性格や台本のセリフ、演技などを自分たちで考え、表現したからだろう。自分たちの感性をもとに、自分たちでキャラクターをイメージして、自分たちで演じる。完成された台本を演じるのではなく、自分たちが一から創り上げ、自分たちで演じたからこそ、セリフに魂が入り、それぞれの生き物の個性をリアルに表現できた。だから、観ている人たちを引き付けた。

そして、チームワーク。劇を成功させるため、各担当がそれぞれの仕事を夢中になって取り組んだ。配役はホールや廊下など、いろんな場所を使いながら、何度も何度も練習をしていた。大道具は生き物や岩を本物に見せようと、段ボールを切ったり、絵の具で塗ったり仲間と協力しながら作業をした。音響・照明はタイミングを外さないよう、舞台に集中しながら機器を操作した。配役だけでなく、裏方が確実に仕事をこなして劇は成功する。演技、音楽、照明、背景画、生き物の絵、衣装…一つひとつが見事にシンクロしていた。だからこそ、海の中にいるような、スイミーになったような不思議な感覚を味わったのだろう。北中生だから、ここまで出来る。心を揺さぶる見ごたえのある演劇をありがとう。

※シンクロ…同期する、タイミングを合わせる、同時に起こる

有志合唱

酷暑の夏。いいちこグランシアターで響かせた歌声がよみがえってきた。少数精鋭。少ない時間で、少ないメンバーと共に仕上げた美しい合唱。見事！

1年生合唱

昨年も経験したのではないかと思うほど、堂々とした姿。そして、1年生らしい、元気ハツラツ、のびのびした歌声。4月。5つの小学校から集まった1年生がたった半年で見事に一つになった。息の合った歌声。体育館に響かせる弾む歌声。1年生の高いポテンシャルを感じた。

※ポテンシャル…将来の可能性

2年生合唱

最初の学年合唱の練習を見て、思わず涙が出た。全員が一斉に指揮者を見た時の、射るような眼差し。子どもから大人に変わっていく進化の過程をまざまざと見せつけられた。そして、本番。それぞれのパートがしっかりと音を取り、それが、一つになって、美しいハーモニーを奏でていた。大きく飛躍した頼もしい2年生の雄姿を見た。

3年生合唱

さすが！歌い終わった後、しばらく、その余韻に浸る見事な合唱だった。3年間の集大成として、クラス全員が一つになって曲のもつイメージをしっかりと表現していた。両クラス金賞をあげたくなる、甲乙つけがたい難しい審査だった。最高の合唱を聴かせる。美しい旋律の歌を聴かせる。中学生最後の合唱を、この仲間と悔いなく歌いきる。そんな一人ひとりの思いが伝わる、心に響く合唱だった。

次回の校長通信NO.29は「自然」「有志発表」「展示」です。